

日本赤十字社神奈川県支部災害対策本部支援センター立上げ・運営訓練を実施しました

平成23年に起きた東日本大震災では、日本赤十字社神奈川県支部（以下、支部）災害対策本部の救護活動をボランティアの力で支えようと、神奈川県救護赤十字奉仕団、神奈川県無線救急赤十字奉仕団、神奈川県山岳赤十字奉仕団（以下、救護関係三奉仕団）が支部災害対策本部支援センター（以下、支援センター）を立ち上げました。

支援センターでは、被災地の情報収集や被災地までの道路状況を調べ地図を作成したり、救護班に帯同するボランティアの派遣調整、救護班が携行する食料や生活用品の調達、補充、救護車両の点検や洗車など多岐の活動に携わりました。

救護活動の長期化、活動地域の拡大により、赤十字防災ボランティアにも協力を依頼し、互いに連携しながら救護活動の収束するまで継続しましたが、活動終了後、こうすれば良かった、ああすれば良かったと思うことや、いくつかの課題があることが分かり、マニュアル化を望む声が多くあがりました。

今春、マニュアルが完成しその検証を行うため、平成26年6月28日（土）に支部職員、救護関係三奉仕団員、赤十字防災ボランティア、総勢70名が参加し、支部災害対策本部支援センター立上げ・運営訓練を実施しました。



当日は午前10時から午後3時まで、奉仕団員と赤十字防災ボランティアが2グループに分かれ、前半のグループは主に立上げ訓練を、そして後半のグループは運営訓練に取り組みました。

実際に当時の環境を再現し、マニュアルで明確にした改良点に従って活動する作業班分けが行われました。作業班に分かれて役割を分担して実行する点が、当時とは全く異なる特徴になっています。災害対策本部からのいろいろな要請を、前もって作業班分けと作業を明確にしておくことで、円滑に任務が行えそうです。

訓練に取り組んでいるボランティアの中には、当時の活動を思い返しながら取り組ん

だボランティアもいたことでしょう。これからも回を重ねて、更に内容の充実を図ることが必要です。

いずれ来るかもしれない災害に備えることが、訓練に参加した一人一人の胸に刻まれた一日でした。



支部災害対策本部支援センター
立上げ・運営訓練
実行委員 月野 鷹雄